

## Ⅸ 特用樹木の効率的増殖技術の開発

(実施期間：平成28年度～30年度 予算区分：県単 担当：矢部浩)

### 1 目的

トチノキ・クワ・コウゾは、菓子や健康食品、和紙原料として利用されており、その多くは国外から輸入されている。近年、輸入材料から国産材料へシフトする動きが活発化しており、地域資源を活かした中山間地域の新たな収入源として期待されている。優良品種の効率的な増殖のため、作業性がよく、クローン増殖が可能な「挿し木」に着目して、栽培者自身が容易かつ効率的に増殖できる「挿し木技術」を開発する。

### 2 実施概要

#### (1) 方法

コウゾの穂木の保存方法について検討した。平成29年12月中旬に採穂し、切断面をパラフィンで被覆したものと無処理の2区に分け、それぞれ新聞紙で包み5℃の冷蔵庫で保管した。保管期間は、採穂から3～6ヶ月とした。発根処理として100ppmのインドール酪酸溶液に基部を24時間浸漬した後、真砂土を用土とした挿し床に挿し木した。

トチノキへの発根促進剤の効果を検討した。平成30年3月下旬に採取した前年枝、6月中旬に採取した当年枝に発根促進剤処理を行い、真砂土を用土にした挿し床に挿し木した。

それぞれ挿し木作業後は、試験場内の自動灌水設備付きの寒冷紗を張った屋外ガラス室内で適宜ミスト散水を行いながら養苗した。養苗後は挿し木を抜き取り、発根状況を調査した。

#### (2) 結果

コウゾは保存方法に関わらず保存期間中に挿し穂の含水率が大きく変化することはなかった(図)。保存期間3ヶ月のものの生存率が最も高く、保存期間が長くなるにつれて生存率が下がった。保存方法の違いによる生存率に差はみられなかった(図)。

トチノキは前年枝に発根促進剤を施した場合、発根若しくは発根の前段階である基部の肥大が確認された。挿し木90日後の発根率は37%となり、無処理に比べて発根率の向上がみられた。

### 3 結果の図表と研究の様子

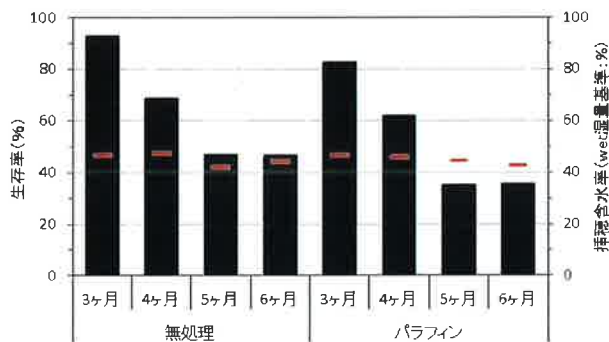


図 保存方法・期間別のコウゾ挿し木発根率



写真 トチノキの挿し木状況